

すぎなみ大人塾 夜コース 日時：平成 24 年 7 月 4 日（水）

公開講座「まちの魅力を再発見する方法を考える」

ゲスト講師 利根川英二事務局長（湯島本郷マーチング委員会）

学習支援者・広石拓司さん

こんばんは。学習支援者の広石です。今日は、こちらに湯島・本郷マーチング委員会の利根川さんにお越しいただき、どんな活動なのかこれからお話していただきます。私の事務所も根津にあり、少し前から町のあちこちに素敵なイラストが飾られていて、これは何かな、と興味を持っていました。そうしたらある勉強会で、利根川さんとお会いして、利根川さんは町の印刷屋さんであり、街の風景を資源だと考えていて それをどういう風に生かそうか、と色々な仕掛けをされてきていることを知りました。大人塾のゲスト講師にいらして頂いたのは、利根川さんは元々街づくりをすごく一生懸命やっていたわけではなくて、何気ない街の風景を、「もっと生かせる」と発見されて活動を始めた、大人塾の活動も、何か特別なことをしなくても、地域の中にあるものにヒントがあるのではと思います、皆さんの活動のヒントになるのでは、と思ったからです。また、この活動は湯島地域だけでなく、全国に飛び火しています。

前半は 利根川さんのお話、後半は、利根川さんの活動を参考に杉並でどんなことができるのか、みなさんと考えていけたらと思います。色んな側面でのヒントがたくさんあるのではと思いますので、楽しみに聞いてください。

利根川英二さん

<家業の印刷屋さんから思い立つ>

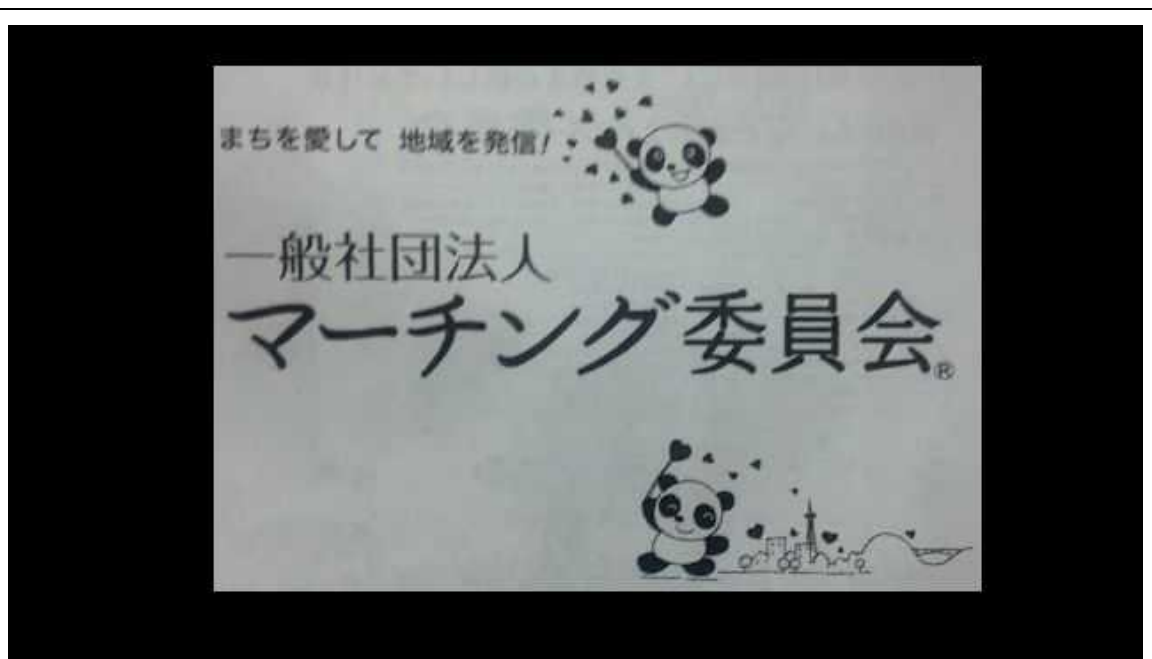
こんばんは。本日はお招きありがとうございます。 利根川英二です。文京区湯島で創業 65 年になる印刷業を営んでいます。私はもともと地元が好きではなかったんですが、ある年、青年会議所に入って、地元（気持ち）が戻ってきました。一時、地域が嫌いだったのは、町会を、生まれ育った人たちでそこで仕事をしている人たちが牛耳っているように感じていたのですが、そういう人がつなげると、逆にすごいパワーになると実感しています。まず最初に、NHK「おはよう日本」にて 一昨年（2019年）の2月、わたしたちの活動が紹介されま

したので、ご覧ください。

NHK「おはよう日本」の取材VTRから

・・・地元の身近な風景を絵に描いて伝える取組みが行われています。
利根川さんの友人のイラストレーターの上野さんがイラストを描き、絵葉書にしている。地元の人が絵葉書を出すことにより、実際そこに遊びに来る人もいれば、自分で風景画を描きたくなり、上野さんに絵を習いに来るようになった人、病気で退院し、絵葉書の場所に一日一か所行くことで、回復している人もいます。「この取組みを通して、街を元気にしたい」と利根川さんは語る。・・・

ここにパンダがおります。パンダはよく客寄せパンダと言われるように非常に愛らしく、人々を惹きつけますね。街+現在進行形ingでマーチング、街はいつも動いているんだよ、というイメージを、パンダがハートをばらまいて心に火を灯すというイラストで表現しました。地域のポテンシャルを発見するポイント、マーチング委員会の理念がありますのでそれをこれからお話させて頂きたいと思えます。普段は印刷会社さん向けにセミナーを行っているのですが、今、デジカメなどの普及で、印刷業の需要が減ってきていることは確かです。でも、まだまだ足元には気付いていない宝が一杯あるんですね。干支よりも、自分の地域の自慢を年賀状などの便りにすると喜ばれます。



公開講座資料より

江戸の歴史は、家康が江戸に来た天正18年にスタートしましたが、海と田んぼばかりで何もありませんでしたので、家康は一から江戸の町を作りました。すぐその青梅街道は、甲州から石を持って来るために造られた道です。江戸城の周りに堀を造り、重い材木など運ぶ物流に使うなど、京都、大阪の堺の良いところだけを全部を真似して街づくりをしました。

「先義後利」という言葉があり、私たちはこれをモットーにしています。この言葉を、利根川印刷株式会社を創業した私の父親が、「利根川の利は『先義後利』の利だ。」と、ずっと言っていたのです。私は意味を分からないでいましたが、数年前、江戸中期に石門心学というものを開いた石田梅岩という、京都亀岡出身の思想家の言葉だと知りました。江戸時代は土農工商と、商人が一番身分が低いとされていましたが、沢山稼いできて悪い役人と組んだりする商人も出て、世の中が乱れていました。そんな頃、梅岩は「人様のお役にたつことがまず大事。人様のために先にやる、すると後からお金が回ってくるんだ。」と、商人に教えたそうです。これを活動のモットーにしています。

最初の活動のきっかけは、わたしは写真が好きで、最初は東大の門が12あるので、カレンダーを作って販売してみようと写真を撮ったのですが、生々しすぎて今一つでした。そこで、友人でイラストレーターの上野さんに、イラストを頼んだのがきっかけでした。今では106枚絵葉書になり、安田講堂の売店で販売しています。

上野さんの絵は、ニュートラルな雰囲気、感じた色で描いているのが特徴です。三河稲荷や安田講堂の枝垂桜は、このように描かれています。



公開講座資料より
湯島本郷マーチング委員会

<文京区役所円周の地図>

この地図の、半径 1 キロの範囲の 13000 世帯の人たちに 町自慢を楽しんでもらおう、と活動しています。中心は、御茶ノ水のわたしの会社でなく、湯島と本郷の中間地点が文京区役所になっていますので、そこを中心にした範囲で活動しています。ご存知のように、昔東京は 35 区だったのが、合併され 23 区になりましたので、例えば小石川と本郷はまるで文化が違います。江戸・明治でいう本郷区のことを私たちはやろうと決めました。杉並区は、もともと杉並区だったと思いますが、エリアによって色々特徴があるかと思います。

土地の役割などについて、ネット、辞書、教育委員会の資料などを駆使して調べていくうちに、ストーリーが生まれていきます。例えば、前田藩の下屋敷があった境界は、金沢は文化が素晴らしいので、美味しい和菓子屋さんが沢山できたり、湯島聖堂は教育の殿堂なので、近くに女子師範、東京師範、など沢山の学校ができたり、関東大震災で移転したり・・・このように、杉並にも色々なストーリーがあると思います。

<湯島本郷マーチング委員会とは>

湯島本郷マーチング委員会は、「地域活動の情報プラットフォーム」と謳っています。印刷屋の元は瓦版屋だと思のですが、自分たちでニュースも仕入れて印刷、配布まですべてやっていた、今でいう新聞社にあたります。和菓子屋さんも材料の調達から製造、販売まですべてやっていました。これは S P A といって、流通の無駄なコストがない商法です。会社、大学、町会などの組織を、平らにつなげていきたいと思っています。日本は、江戸時代から明治に、縦割り社会になりました。富国強兵の政策の下、伸びそうな企業に国が投資し増々強大化させていった、その弊害が今でも残っているのですが、私たちは地域を興していく者として、普遍性のあることに取り組んでいきたいと思っています。そして、街（地域）自慢を楽しんでいただき、地域に誇りを持っていただきたいと思っています。

湯島・本郷は同じエリアですが、実はインテリジェンスが全然違う、湯島はガキっばい大人こどもの集まり、本郷は東大があり気取っている、でも僕はそれを一緒にしたいと思い、敢えて「湯島本郷」としました。「『湯島・本郷の街づくり』を湯島本郷マーチングと称します。私たちは、湯島本郷に根ざした情報サービスを行いながら地域の相互情報の受発信を支援し、湯島本郷の住民・商店・企業の地域活性化促進を支援するプラットフォームを目指している団体です。」とあるように、住んでいる方々、働いている方々さまざまなひとたちを巻き込みたいと思っています。

印刷業者なので、最初はハガキを配っていたのですが、これは立派な製品だから、もらう訳にいかない、と言われ、4枚50円で販売したのが絵葉書を売った始まりでした。評判になり、カレンダーなどもつくるようになりました。文京区役所アートサロンで、100枚の絵の展覧会を開催したこともあります。一日半の開催で650人が見に来てくれました。6000枚チラシを作ったのですが、「悪がきどもが地域に恩返ししようと企画しました」というようにストーリーもつけました。また、大江戸線には受験生のためのフリー切符を提案しデザインをしたり、大江戸線の中吊りに無料で絵を飾ったりしています。

最近マンションの建築が多いのですが、囲いにイラストを描かせてもらったり、交番には街並み案内図を掲示したり、旅館組合が30年間出していた看板を新しくしたり、同級生の酒屋や花屋の店頭にはハガキを置いてもらっていて、本当に町のあちこちにイラストがあふれています。東大の生協でも、販売しています。来月頃はクリアファイルを出す予定です。東京大学はいつでも入れて、ガイドもしてくれるし、スケッチにも最適な場所ですよ。

< 次のステップに移る >

地域に生まれてずっといる私たちのような者を、「インディアン」、マンションなどであとからバンバンやって来た人を「移民」と呼んでいます。インディアンには地元のことを伝える責任があるんじゃないか、と思っています。薬師寺のお坊さんに聞いた話ですが、アメリカのインディアンは七代先の子孫のことまで考えているそうです。私たちも、なんで、医療関係、学校が多いのか、和菓子屋さんが多いのかなど分からない人が多いと思うので 伝えていくことが大事かな と思っています。

杉並にも伝える歴史があると思います。今までは読売新聞だけに入れていましたが、朝日やケーブルテレビなどにも広げ、今までは自分たちの資金これからは地域の人を巻き込んで一緒に支えてもらおう、と始めています。

1回目ときのフレーム切手です。

普通、切手の絵柄は郵便事業株式会社のお偉方から、トップダウンで決められるものなのですが、地元の郵便局20の局長さんを集め、プレゼンをして説得して実現したんです。6000枚売れました。

この活動は、全国のマーチングでも展開して行っています。

また、イラストを無料で提供していたので、代わりに郵便局で何をしてほしいか聞いてくれて、ハガキを物販してもらいました。すると、ハガキを出す場所なので、大変よく売れました。



行政とは、商工会議所と組んで、食堂百選という取組をして、選ばれたお店のイラストを制作したり、文京区の観光協会に案内を置いています。

「湯島本郷100選」という本も作り、教育委員会に寄付したりとじわじわ確実に伸びているところです。宮崎でつくった焼酎に、文京区のイメージ・東大の赤門をデザインして、その名も赤門という焼酎です。

また、明治3年創立の最初の公立小学校、湯島小学校があるのですが、その校長先生が子供たちの100景も作りたということで、こどもたちがデジタルカメラで写真を撮り、上野が教えてイラスト描きました。そしてイラスト展示会を開き、ポストカードも作成して販売しました。震災の年だったので、募金活動も行い、60万くらいになった売り上げを、文京区に避難されている方々に寄付させていただきました。私たちは、ソーシャル（公益企業）、地域にとってかけがえのない企業を目指しています。

学習支援者・広石拓司さん

ありがとうございました。湯島本郷の活動の話をしていただいて、地域活動にとって、色々なヒントがあったと思いますが、質問や提案などありますか？



質問者

私はデジタルを利用した活動をしようと思っているのですが、メンバーの方どうやって集めたのか教えてください。

利根川英二さん

仲間作りは、まず集めてから何やろうかではなく、自分のやりたいことが先にあり、自分がやりたいからこの指とまれ、なんです。基本的に小学生の同級生たちなので、これをやる時は誰を巻き込んだらおもしろそうか、頭に浮かびます。初めての事例をやる時には、具体的に形が見えないと皆さん分からないので、具体的に示すことが苦労します。例えば、酒屋、お菓子屋、葬儀屋などに、ハガキ置いてもらい、売り上げの6掛けを支払うなど、winwinの関係を築くことが大切です。

質問者

最終的な到達点、何を指すのかのイメージを教えてください。

利根川英二さん

現在、情報のやりとりのプラットフォームという理念で活動していますが、日本全国に拠点をつくって理念を共有し、情報の流通網を作りたいです。杉並区のような都市消費地と地方を、お互いにメリットがある形結んだり・・・地域の中では、独占的な広告代理店になりたいです。新聞の折り込みにお金は払わないのですが、それは新聞社にとっても僕らにとってもメリットがあるから。新聞の購読者は減る一方なので新聞配達の問題もあるし、配達員の地域の見守り隊としての役割もあるので、協力関係を作りたいと考えています。

学習支援者・広石拓司さん

何か活動を始めるとき、お金がないのがネックになるが、お金を使わなくてもお互いwinwinの、どちらにとってもメリットがあるような協力関係の創り方も、参考になると思います。

質問者

そもそもの行動のきっかけは何ですか？

利根川

ある挫折があり、会社を整理せざるをえなくなった時があったのです。そのときに、父親が残してくれた土地が負債を帳消しにしてくれました。すごく父親に助けられた、と感じて、いつも世のため人のために動いていて、亡くなった今でも地域の皆さんにも感謝されている、父親の精神を引き継ぎたいと思ったことです。

質問者

数々のアイデアはどこから生まれるのですか。

利根川英二さん

とりあえず走りながら考えるタイプで、アイデアが頭からわいて身体から行動になって出てくる感じです。ジムに行ってサウナに入り汗を流すときよく浮かび、浮かんだアイデアは1週間以内に着手します。仲間とブレーストーミングもします。

質問者

杉並の人口は多く、確かにインディアンも多いが、事業は少ないので、文京区と条件が違うと思うのですが。

学習支援者・広石拓司さん

文京区のような環境でないと出来ないわけではなく、全国展開していっているの、そのお話の後、杉並ならではの可能性を皆で考えていけたらと思います。

利根川英二さん

先程のパンダですが、あなたの町づくりに当てはめてください、ということで、全国展開していく上で、「マーチング委員会」はお金をかけて商標登録にし、メンバーになって頂けると名前を貸出しますよ、という仕組みを作りました。全国の3700市区町村、町興しの政策は大体同じです。そんな中私たちは、地域性を大事にした町興しを提案しています。

第一回のフランチャイズは足立区でした。足立70万人地区を三つに分けて、西新井大師でまず展示会を開き、喜んで頂けました。震災前の1月に、いわきでもイラスト展を開催していました。こちらは、建物ごと流されてしまいましたが、震災後の福島でも開催しました。東三河では、行政の人たちが熱心に協力してくれました。現在全国約80社になり、活動しています。

品川で1年前展示会をしたときは、段ボールを使っての展示の仕方のノウハウを伝えました。第1次産業・農業、第2次産業・製造業、第3次産業・銀行やサービス業、という昔の仕組みから、相互をつなげる我々独自のプランディングをしたいと考えています。地域の情報プラットフォーム&情報流通業として、ノウハウや事例を共有し、マッチングを考えられる、地域の互惠情報事業を目指しています。これからの日本は観光が大事なので、着地点から発信し、ちょっとした神社のお祭りなども紹介していったら、と思います。信用金庫のロビー展は、ATMばかりお客さんが多くなっているので集客のお手伝いと、窓口でせっかく来ていただいたんだから楽しんでほしい、ということで開催しました。共同通信関係でセミナーを開いたり、色々と展開しています。イラストで街興しをしていると、街にごみが落ちているのが嫌になって、朝掃除するようになり、お隣と挨拶を交わすようにもなりました。

新しい公共という概念がありますが、みんなが当事者として関わって全てのひとに居場所があり、支え合っていける社会にしていきたいと思います。地域に対していろんなアイデアを出していきたいです。成功した人とそうでない人との違いは、行動を起こしたかどうかだと秋元康が言っていますが、決断よりまずは動くことをしていきたいと思います。

学習支援者・広石拓司さん

地域のアイデンティティをどうやってつくるのか、ひとつのテーマですね。利根川さんも、街が大好きだったわけではなく、イラストがきっかけで動き出して興味が出るし、調べるとおもしろくなり、周りのひとも色々教えてくれて、どんどん豊かになってくるのかなと思います。去年大人塾の方で町歩きしたとき、色々気付きました。

利根川英二さん

青梅街道、蚕糸の森公園、高円寺陸橋、セシオン等 絵になるところはたくさんあります。せっかく50人ここに集まってくださったのだから、セシオンで学んだ大人の地域自慢イラスト展、というように、ひとり1、2枚担当して、そこについてしっかり調べ、杉並100景展が開催できると思います。

質問者

とても刺激的なお話でした。

写真でなくイラスト、全国どこに行っても通用するツールだと思うが、逆にイラスト以外のツールは何があると思いますか？

利根川英二さん

人の心に火を灯す、という話をしましたが、地域ひとたちが自立して自分たちで何とかするんだ、という気持ちが大切です。その点、イラストは地域の人と仲良くなりやすいので、今のところは一番いいかな、と思っています。

学習支援者・広石拓司さん

イラストの良さが色々あると思うのですが、抽象的でなく、風景なので具体的なこと、淡い心の色で描かれていて心象風景のようなことがあるのかなと思います。だれもが思い起こせるもの、色んなひとの心を反映させるものであることが魅力なのかもしれません。イラストがなぜいいのかを考えることによって、逆にほかのものも見つかります。歌も同様でしょう。

学習支援者・手塚佳代子さん

折角なので、杉並にも100景がありますのでご紹介します。20年前、区政60周年のときに出されたもので、風呂敷包みです。稲作の写真が衝撃的です。

去年は、詩歌館かるたというものも作られ、こちらのイラストは水墨画の先生が描かれています。郷土博物館の分館ではスケッチの展示会もしています。

先程歌の話も出ていましたが、杉並の歌、西荻ぶらり、阿佐ヶ谷レイニーブルーなどY u - t u b u にアップされています。区の限定の切手も、区政80周年で秋に発売されます。杉並区は資源がないわけではないので 生かし方をみなさんで考えていけたらいいのかな、と思いました。今日だけ参加された方もまだ今年度の大人塾、参加可能ですのでどうぞご検討ください。

では、利根川さん長い時間ありがとうございました。